

中 学 校

平 成 9 年 度

# 教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

|     |
|-----|
| 社 会 |
|-----|

東 京 都 教 育 委 員 会

平成9年度

## 教 育 研 究 員 名 簿（社会部会）

### ＜地理的分野＞

| 氏 名       | 学 校 名       |
|-----------|-------------|
| 橋 爪 美奈子   | 世田谷区立希望丘中学校 |
| 原 知 行     | 豊島区立長崎中学校   |
| 浦 山 裕 志   | 北区立新町中学校    |
| 山 岡 裕基子   | 板橋区立加賀中学校   |
| ◎ 田 口 克 敏 | 練馬区立中村中学校   |
| 糟 谷 成 美   | 葛飾区立大道中学校   |
| 芝 田 実     | 昭島市立清泉中学校   |
| 石 塚 克 美   | 羽村市立羽村第二中学校 |
| 嶋 津 和 之   | 日の出町立平井中学校  |

### ＜歴史的分野＞

| 氏 名       | 学 校 名       |
|-----------|-------------|
| 川 杉 玲 夫   | 文京区立第六中学校   |
| 船 澤 隆 行   | 台東区今戸中学校    |
| 向 田 稔     | 墨田区立堅川中学校   |
| 養 田 和 明   | 大田区大森第二中学校  |
| 山 田 勝 之   | 足立区立竹の塚中学校  |
| ○ 高 田 孝 雄 | 八王子市立宮上中学校  |
| 宮 崎 宏 明   | 三鷹市立第六中学校   |
| 岩 崎 弘 晃   | 日野市立日野第三中学校 |
| 佐 藤 宗 和   | 武蔵村山市立第五中学校 |
| 田 村 克 彦   | 新島村立式根島中学校  |

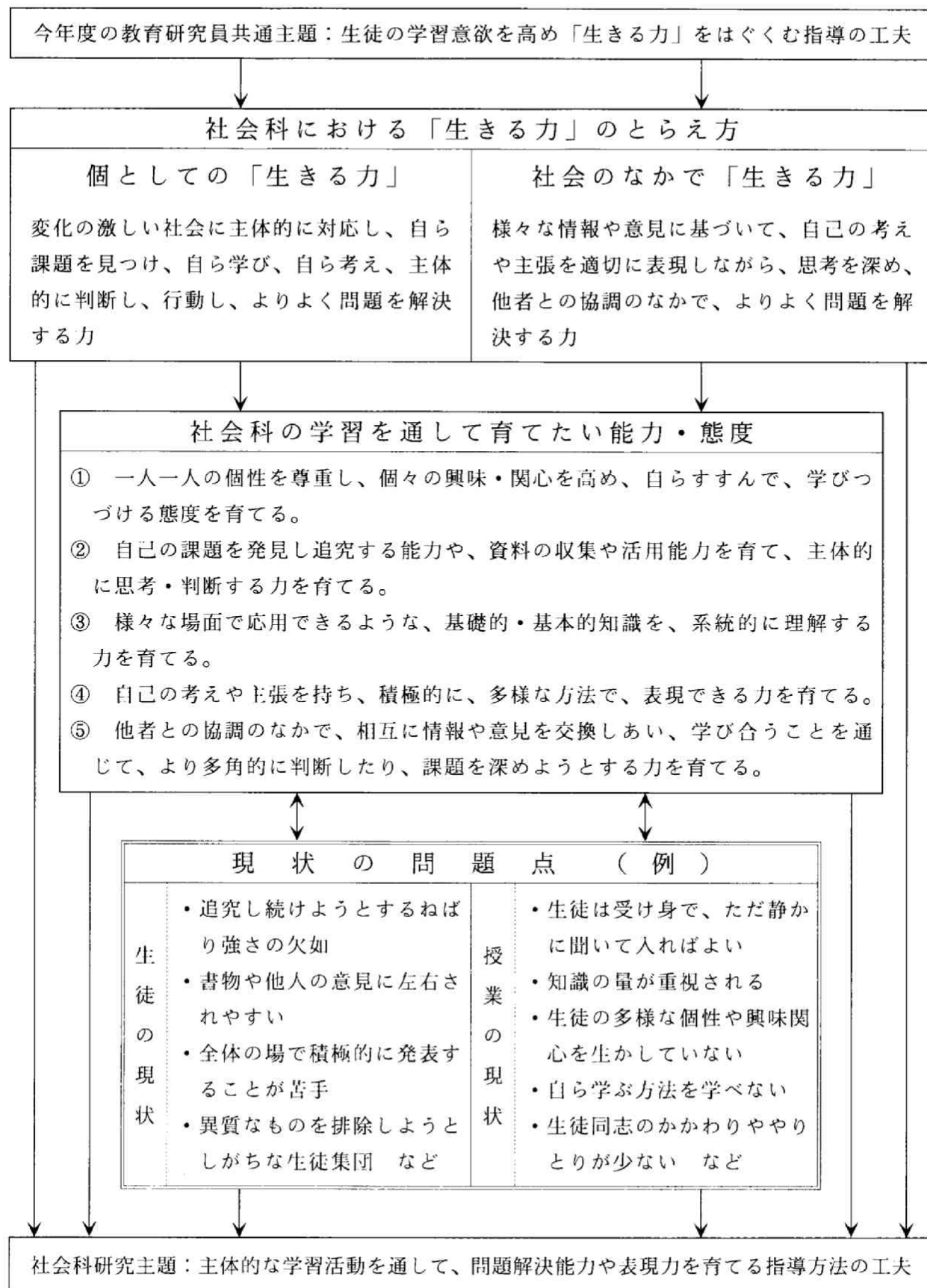
◎ 世話人      ○ 副世話人

担当 指導部中学校教育指導課指導主事 木 村 俊 二

## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| I 研究の全体構想図 .....          | 1  |
| II 地理的分野の研究 .....         | 2  |
| 1 主題設定の理由 .....           | 2  |
| 2 研究のねらいと方法 .....         | 2  |
| 3 地理的分野研究構想図 .....        | 3  |
| 4 実践事例 A .....            | 4  |
| 5 実践事例 B .....            | 8  |
| 6 研究のまとめと今後取り組むべき課題 ..... | 13 |
| III 歴史的分野の研究 .....        |    |
| 1 主題設定の理由 .....           | 14 |
| 2 研究のねらい .....            | 15 |
| 3 研究の方法 .....             | 15 |
| 4 歴史的分野研究構想図 .....        | 16 |
| 5 指導計画 .....              | 17 |
| 6 授業の概要 .....             | 20 |
| 7 研究のまとめと今後取り組むべき課題 ..... | 23 |

# I 研究の全体構想図



## Ⅱ 地理的分野の研究

主体的に学び合う学習を通して、問題解決能力を高める指導方法の工夫

### 1 主題設定の理由

現在、わが国における国際化・情報化・少子化・高齢化などの社会変化、さらに地球規模の環境問題の深刻化などに主体的に対応できる生徒を育成するためには、学校教育において自ら学ぶ意欲を持ち、自ら考え、判断し、表現することのできる能力や態度を身に付けさせることが求められている。しかし、従来の社会科の授業においては、しばしば教師主導型、知識優先型になりがちであり、その結果、生徒が「学び方」を学んだり、社会的事象について自ら課題意識をもって考えようとする意欲や態度を身に付けさせる学習が十分行われていない面も見受けられる。

地理分科会では、このような社会科授業の現状を踏まえ、また、共通主題の達成を図るために、社会科教育を通して生徒一人一人の「生きる力」をはぐくむためには、生徒の問題解決能力を高める授業を行うことが大切であると考えた。そのためには、生徒相互の主体的な学び合いを重視する授業を工夫することが有効であると考え、

- (1) 生徒の興味関心や課題追究の姿勢を引き出すための指導はどのようにあったらよいのか
- (2) 教師は生徒に対して、どのような指導・援助を行う必要があるのか
- (3) 生徒の主体的な参加を促す授業を行うために、生徒の発表を取り入れる上でその形態や方法をどのようにしたらよいのか

などについて検討した。

そして、また、われわれは、上記のような生徒の主体的な参加による授業を行うことによって、生徒は問題解決能力や他者との問題意識の差異を認識する能力及び新たな問題に対応する能力などの「生きる力」が育てることができると考えた。

### 2 研究のねらいと方法

#### (1) 研究のねらい

ア 生徒が自らの興味・関心をもとに、課題意識をも持ち、追究する指導方法の工夫

生徒一人一人の興味・関心を生かし、課題追究の過程を重視することにより、生徒が主体的に参加する授業をつくる。

イ 生徒相互がはたらきかけ合い、学び合うための指導方法の工夫

生徒相互の学び合いを重視する班学習や発表学習において活発な意見交換を行うことにより、多面的視点から問題をとらえ、その解決を図ろうとする態度を育てる。

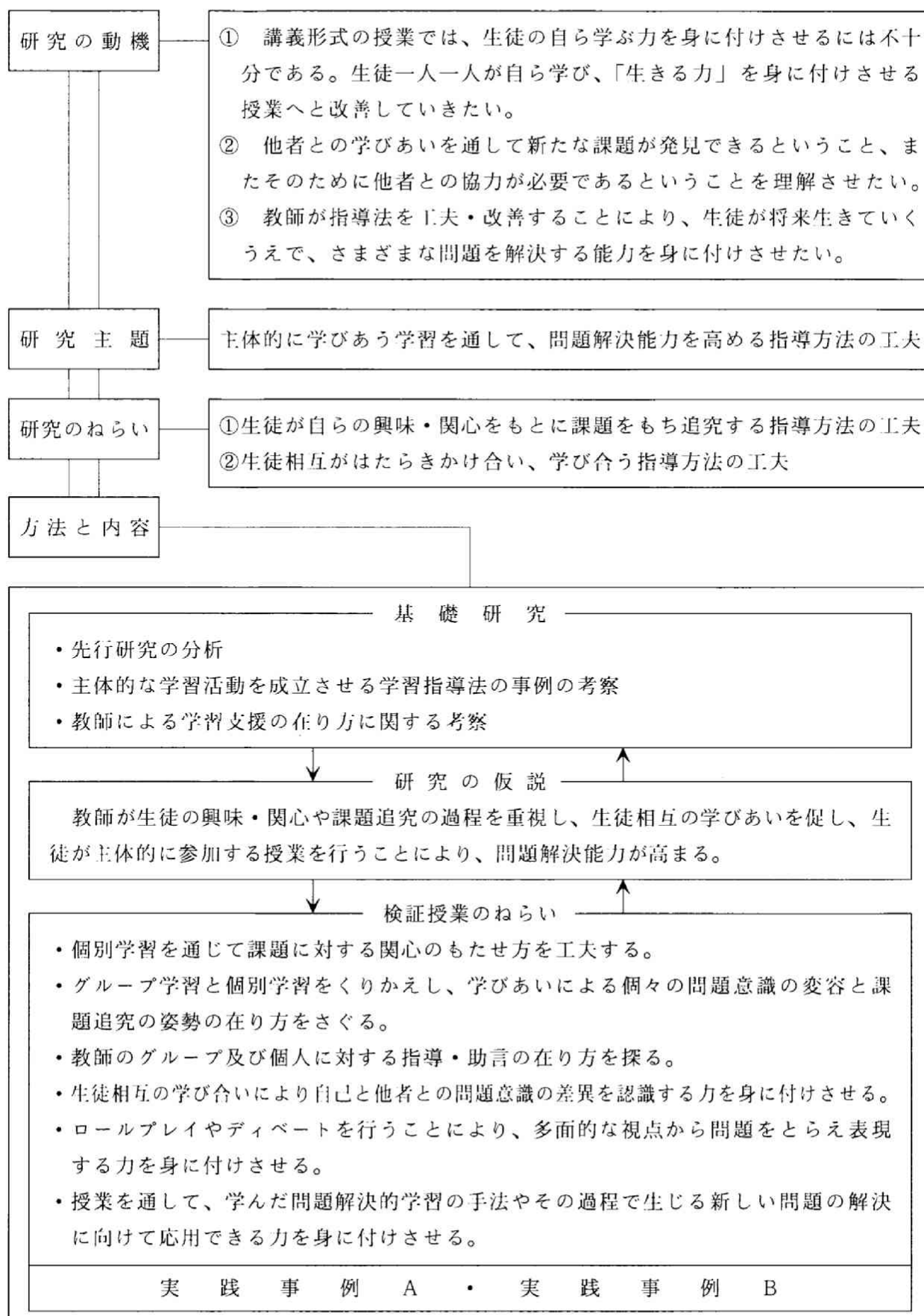
#### (2) 研究の方法（詳細は次ページの地理的分野研究構想図参照）

ア 研究仮説の設定

イ 基礎研究（先行研究等）

ウ 授業研究（2回）

### 3 地理的分野研究構想図



#### 4 実践事例 A

##### (1) 単 元

「中国・四国地方」

—— TV番組プロデュース形式「班対抗！お国自慢合戦！！」——

##### (2) ね ら い

ア 中国・四国地方の各県に関する「自然」「歴史」「産業」「文化」などの調査活動・発表を通じて、それぞれの県の人々の生活の地域的特色を理解させる。

イ 個別学習・グループ学習を通じて、調査・発表（表現）の能力を向上させることにより、地理的事象を多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成する。

##### (3) 指導計画（7時間扱い）

| 時    | 学 習 内 容                                                                            | 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                           | 指導上の留意点と評価                                                                                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事前学習 | <p>「なるほど・THE・中国四国地方」</p> <p>・中国・四国地方の予備知識を得る。</p> <p>・中国・四国地方の学習に対する興味・関心を高める。</p> | <p><b>グループ</b></p> <p>○問題を聞く。</p> <p>○班で相談し、地図帳を活用しながら解答を導く。</p> <p>○解答を解答用紙に記入し、解答用紙を各班一斉に上げる。</p> <p>○正解及び解説を聞き、確認する。<br/>（以下同じパターンで行う）</p>                                                                     | <p>・出題者（授業者）は、生徒の実態に応じて、適宜ヒントを与え、解答を導かせる。</p> <p>・生徒相互の働きかけ合いを促す。</p> <p>〔評価〕</p> <p>・関心・意欲</p> <p>・技能・表現</p> <p>・思考・判断</p>                                   |
| 1 時  | <p>グループが調査する県の決定</p> <p>個人調査の内容の決定</p>                                             | <p><b>一 斉</b></p> <p>TV番組プロデュース形式「班対抗お国自慢合戦！（中国・四国地方編）」の学習方法を知る。</p> <p><b>グループ</b></p> <p>1 調査する県を決定する。</p> <p>2 班内の調査分担を決定する。</p> <p>① 自 然</p> <p>② 歴 史</p> <p>③ 農 業</p> <p>④ 工 業</p> <p>⑤ 名 所</p> <p>⑥ 特産物</p> | <p>・調査する県は重複しないように配慮する。</p> <p>・個人調査開始にあたって、適宜調査の方法を個別指導する。その際、生徒各自の興味や関心を尊重するために、「教え過ぎ」を避ける。（授業者と各生徒の発信のキャッチボール）</p> <p>〔評価〕</p> <p>・関心・意欲</p> <p>・技能・表現</p> |

|                                      |                                                                  |                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2<br>時                               | 個人調査                                                             | <p><b>個人</b></p> <p>3 個人調査を開始する。</p> <p>4 個人調査の完了、まとめる。</p>                                                                                                                                                                  | <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心・意欲</li> <li>・ 技能・表現</li> </ul>                                                                                                                                           |
| 3<br>時                               | 個人調査の発表<br>調査した県のまとめ                                             | <p><b>一斉</b></p> <p>個人調査発表の方法（グループ）を知る。</p> <p><b>グループ</b></p> <p>1 個人調査を発表する。</p> <p>2 調査した県についてまとめる。</p>                                                                                                                   | <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心・意欲</li> <li>・ 技能・表現</li> <li>・ 思考・判断</li> <li>・ 知識・理解</li> </ul>                                                                                                         |
| 4<br>時<br>・<br>5<br>時<br>・<br>6<br>時 | 発表形式の検討<br>・ 決定<br>台本（脚本）<br>の検討・完成<br>役割分担の決定<br>小道具の製作<br>発表練習 | <p><b>グループ</b></p> <p>1 発表形式を決定する。</p> <p>① ニュース報道スタイル</p> <p>② ワイドショースタイル</p> <p>③ クイズ番組スタイル</p> <p>④ ドラマスタイル</p> <p>⑤ 討論番組スタイル</p> <p>2 台本（脚本）を作成する。</p> <p>3 役割分担（配役など）を決定する。</p> <p>4 小道具を製作、完成する。</p> <p>5 発表練習をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内の生徒同士の学び合いが深まるよう支援する。（班内における各生徒の発信のキャッチボール）</li> </ul> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心・意欲</li> <li>・ 思考・判断</li> </ul>                                      |
| 7<br>時                               | グループ研究の発表                                                        | <p><b>一斉</b></p> <p>1 グループ発表の方法を知る。</p> <p>2 各班が研究発表をする。</p> <p>3 研究発表に対する質疑応答を行う。</p> <p><b>個人</b></p> <p>発表記録ノートの完成、提出</p>                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内、全体で生徒同士の学び合いが深まるよう支援する。（グループから全体への発信のキャッチボール）</li> </ul> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心・意欲</li> <li>・ 技能・表現</li> <li>・ 思考・判断</li> <li>・ 知識・理解</li> </ul> |

#### (4) 検証授業の記録（指導計画の第4時）

前時の授業までに各生徒が調査してきたレポート（資料①参照）の内容は、学習のねらいに沿っているものが多かった。また、グループ学習においては、全般的に女子がリードする傾向が見られた。以下に2つのグループの学習の様子を示す。

〔Aグループ〕 班長のリードが良く、話し合いは女子が男子を引っ張る形でうまく進んだ。しかし、本題より表面的な発表スタイルや配役に関心が集中してしまうことがあり、そのような時には、教師が話し合いの方向性の確認や問題点の掘り下げのアドバイス等を行い、軌道修正を図った。



〔Bグループ〕 リーダーシップをとる生徒がなく、話し合いがスムーズに進まなかった。とすると、教師の助言に安易にとびついてしまいがちであったので、状況に応じて、一人一人の考えが出しやすくなるよう、教師が話し合いをリードする場面もあった。全般的には、どのグループも興味・関心を持って学習に取り組むことができた。しかし、課題追究を生徒に強く意識させるための教師の指導助言に工夫の余地がみられた。

#### (5) 自己評価カードの分析（資料②参照）

毎時間の自己評価カードに基づいて、生徒の変容（事前学習から本時まで）を分析した。



「関心・意欲・態度」については、「C」評価の生徒はほとんどなく、大半の生徒は、関心・意欲を持ち、学習に取り組むことができた。「思考・判断」については、時間を追うごとに評価は高まっており、着実に力がついてきているように思われる。また、「技能・表現」についても同様である。これは、個人学習・グループ学習を繰り返すことにより、他の生徒から考え方を学んだり、みんなで話し合い、よりよい方法を考えることができたためであると思われる。一方、「知識・理解」については、他の観点と比べ、「A」評価の生徒が少なかった。

#### (6) 台本づくりの過程（資料③参照）

##### ア 前時まで

個人調査・グループ内発表を通じ、調査した県の現状と問題点を把握する。

##### イ 本 時

- ① 発表形式を5つの番組スタイルから選択し、決定する。
- ② あらすじ（問題提起をどうするか、現状をどう伝えるか等）を話し合う。
- ③ 登場人物を決定する。（班員全員に配役する）
- ④ 台本を決定する。
- ⑤ 番組名を決定する。



## 5 実践事例B

(1) 単元名 「有明海沿岸の土地利用」

(2) 単元の目標

ア 低湿地の生活の工夫や、自然の改変を理解させる。

イ 諫早湾干拓の問題点について個別学習・グループ学習を通して多角的に考察させる。

ウ 調べた結果を様々な表現方法を用いて発表させる。

(3) 指導計画（8時間扱い）

| 時      | 学 習 内 容       | 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 指導上の留意点と評価                                                                                                                                                                        |
|--------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>時 | 新聞記事を調べよう     | <b>個人の学習活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の学習計画を知る。</li> <li>○「諫早湾の干拓」に関する新聞記事を収集する。</li> <li>○記事の内容、賛成・反対派の意見を書き出す。</li> <li>○問題の争点は何かを考える。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○各時の学習計画を示し見通しをもたせる。</li> <li>○地域の図書館での資料収集法を指導する。</li> <li>○見出しに着目させ、要点を読みとらせる。</li> </ul> <p>＜関・資・知＞</p>                                 |
| 2<br>時 | 自分の考えをまとめよう   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞記事をもとに、様々な立場からの意見の違いを把握する。</li> <li>○賛否両方の意見の根拠を理解する。</li> <li>○自分の意見をまとめる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○多面的に問題を論じていることに気付かせる。</li> <li>○簡単な理由も挙げられるようにする。</li> </ul> <p>＜関・思・資・知＞</p>                                                             |
| 3<br>時 | 生活班の中で討論会をしよう | <b>学び合いの活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを班の中で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表－2分、質疑応答－1分</li> </ul> </li> <li>○自分の意見との違いや、発表の根拠の弱いところを指摘しあう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず1回は発言する。</li> </ul> </li> <li>○自分の興味・関心に応じて所属するグループを選択させる。 <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">[</div> <div style="text-align: center;"> ディベート賛成側班×2<br/> ディベート反対側班×2<br/> ロールプレイ班×1 </div> <div style="font-size: 3em; margin-left: 10px;">]</div> </div> </li> </ul> <p>自分の意見と反対の班に入り、自分の意見の矛盾を見つめ直すことも促す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表、質疑応答の経験をさせる。</li> <li>○どんな意見でも、弱点があることに気付かせ立場にかかわらず批判できるようにさせる。</li> <li>○所属希望の偏りが予想されるので、あえて反対の立場を選択することも認める。</li> </ul> <p>＜思・知＞</p> |

|                       |                                  |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4<br>時                | グループの発表<br>を組み立てよう               | <b>興味・関心に応じた集団での活動</b><br>○どんな主張を盛り込んで発表するかを<br>考える。<br>○役割分担を決定する。                                                                                                                                                   | ○全員の考えを理解し、<br>主張に盛り込めるよう<br>に助言する。<br>＜関＞                                                                                                                          |
| 5<br>時                | 発表会の準備を<br>しよう                   | ○自分の主張を裏付ける資料を収集して<br>くる。<br>○発表のリハーサルを行う。                                                                                                                                                                            | ○特にディベートの話し<br>合いは別教室で行わせ<br>る。<br>＜関・資・知＞                                                                                                                          |
| 6<br>時<br>・<br>7<br>時 | 発表会を行おう<br>①<br><br>発表会を行おう<br>② | ○わかりやすい表現方法を工夫する。<br><br>○自分の主張を的確に伝える場をもつ<br>・ロールプレイ班が7分間の発表を行<br>う。<br>・ディベート(A)班が討論を行う。<br>・ディベート(B)班が討論を行う。<br>○仲間の発表を相互に評価し合う。<br>・評価表に記入し、ディベートの勝敗<br>判定を行う。<br>○発表会のまとめをする。<br>・意見の対立点を整理する。<br>・自分の考えを再度まとめる。 | ○ロールプレイは劇づく<br>りを通して開発と環境<br>保全に迫れたかを評価<br>する。<br>○ディベートの作戦タイ<br>ムは、生徒の意見発表<br>に混乱が生じた時に行<br>う。<br>○発表をしっかりと聞かせ<br>るために、評価表の記<br>入法、記入の場面をあ<br>らかじめ指示する。<br>＜関・思・知＞ |
| 8<br>時                | もう一度諫早湾<br>の干拓を考えよ<br>う          | <b>個人の学習へのフィードバック</b><br>○発表会で出された問題点をさらに深く<br>追究する。<br>○新たな学習課題を設定する。                                                                                                                                                | ○再度自分の考えを発表<br>し、討論させる。<br>○同様の社会問題に応用<br>する姿勢を育てる。<br>＜関・思＞                                                                                                        |

※ 表中の ＜関＞ は社会的事象への関心・意欲・態度、＜思＞ は社会的な思考判  
断、＜資＞ は資料活用の技能・表現、＜知＞ は社会的事象についての知識理解に  
ついての評価の観点を表している。

#### (4) 検証授業までの過程

#### 資料 1

本単元の導入では、教師が準備した資料によって興味・関心を持たせるという方法ではなく、生徒自身が収集してきた資料の中から、「諫早湾の干拓」についての事実関係や、意見の対立を読みとらせるという手法を用いた。それは、この事例が自然環境や生物の命を守るといった比較的生徒の興味や関心を引きやすい題材であったからである。そこで、生徒の既成概念を揺さぶり、単なる興味・関心から自らの学習課題を設定するまでに高められるかを検証した。(資料 1 参照)

私は反対です。私はどの新聞を読んでもこのことに賛成することができません。日本でも有数の干潟をなくすことにより、ムツボウも死にかけたり、渡り鳥もこない干潟にした人達が私はゆるせません！こんな形で干潟を干拓しても、たぶん誰も使わないと思います。

特に、第 3 時では発表会の形式を意識し、限られた時間の中で自分の主張を述べ、他人の意見との差異に気付かせるようにした。また、同じ立場の意見でも根拠の弱い点を指摘させた。その訓練を通し、賛成・反対、いずれの立場を取るにも、多面的な視点からできごとを分析する必要性や、自分の意見を補強する資料を集める必要性を意識させた。発表形式の選択ではディベートで自分の立場と異なる側をあえて選択した生徒もいたが、様々な立場の考えを知る意義を説明し、その上で再度自分の意見を検討し直す機会を保障した。ロールプレイ班には討論に自信のない生徒や、めんどろに感じる生徒、興味・関心の掘り起こしが十分でない生徒が集まった。

ディベート班は、最初に各自の考えを交換した上で、班の主張の柱を立てた。

##### 賛成側（主張の柱）：

- ・水害を防止し人命を守ることが大切
- ・長年かけてきた干拓を中止することは逆に税金のむだづかい
- ・反対運動はにわかに盛り上がったもの
- ・動植物の生息地は他にもある

##### 反対側（主張の柱）：

- ・動植物の保護が大切
- ・干拓した農地の需要がない
- ・各地に農地が余っている
- ・税金のむだづかい
- ・水害対策になっていない

また、第 3 時までには自分の意見にかかわらず、資料から読み取った賛成側・反対側の意見に対し、批判を加えることを行った。これは、質問事項をあらかじめ予測させるとともに、異なった立場の考えを尊重する態度を育てることをねらったためである。発表会の役割を分担し、各自の発表原稿の作成、読み合わせ、想定質問への回答の練習を行った。

ロールプレイ班は、希望者が少なかったこともあり、積極性に欠ける者が多く、主張の柱を立てる段階からつまづいた。そこで、再度第 1・2 時の学習に立ち返り、様々な立場の意見を整理させ、登場人物を決定する際の参考にするよう助言した。しかし、自分の意見がうまくもてない一部の生徒にとっては、登場人物と配役が決定してから、その人物の気持ちになって脚本を考えることができなかった。脚本づくりは何場面かに分けて、登場する配役が集まって作りあげる予定であったが、話し合いが進まず、2 人のリーダー格の生徒が代表して作ることとなった。

(5) 検証授業の記録 <第6時> 発表会を行おう①

まずロールプレイ班は、男子が恥ずかしがることなく発表したのに対し、一部の女子は表現力の弱さを克服するにいたらなかった。生徒がこの発表をどうとらえたか、評価表によって分析してみた。

<表1>

|      |               | A  | B | C |
|------|---------------|----|---|---|
| 発表者側 | 役割分担決定への積極的参加 | 4  | 4 | 3 |
|      | 自分の役柄の性格の理解   | 2  | 6 | 3 |
|      | 異なる立場の考え方の理解  | 6  | 5 | 0 |
|      | ロールプレイ後の充実感   | 5  | 5 | 1 |
| 聞き手側 | 多くの立場を意識した脚本  | 8  | 7 | 2 |
|      | 劇を通しての主張の理解   | 12 | 7 | 2 |

<評価表の評語の意味>

A = よくできた

B = どちらともいえない

C = よくできなかった

(以下の表も同様である)

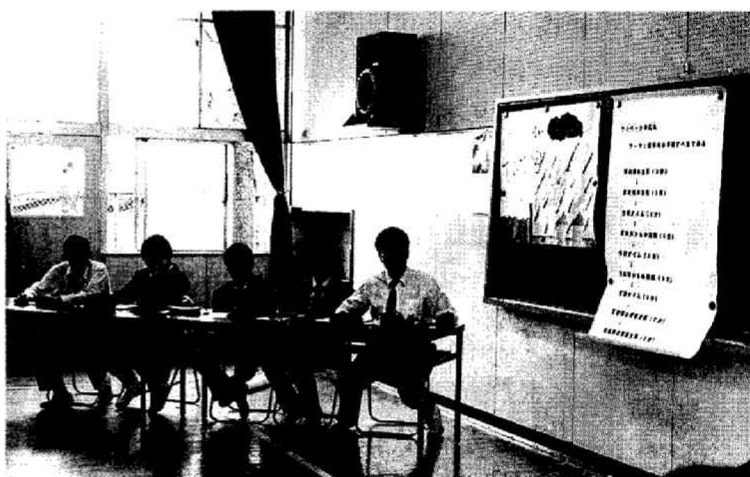
表1から、教師の指導で不足していた点を考えてみた。

- ① 様々な人々がこの問題にかかわっていることや、その立場を深く考えさせる場面を与えられなかった。そのため、生徒がどんな役割を選択してよいのか迷ったままになった。
- ② 自分の役柄が理解できているかを、個々に確認できていなかった。
- ③ 脚本をいくつかの場面に区切って、意見の対立点や班の主張が盛り込まれているかを話し合わせることができなかった。そのため、脚本づくりに参加しなかった生徒が演技方を理解できなかった。

以上の反省点が残った。

ディベート班は、賛成側は当初から賛成の立場であった男子生徒と、反対ながら賛成側にまわった生徒4人で構成された。しかし、あらかじめ反対意見の批判をワークシートに記入していたため、スムーズに賛成側の主張を考えることができた。準備段階では、リーダーの男子生徒が中心となって4人に調査結果や主張の柱を教える形をとっていた。また、

反対側の主張や質問は、4人がたやすく想定することができ、役割分担も短時間で決定した。反対側は「生き物がかわいそう」という、感情的な理由を抑えることができるかに重点をおいて助言を行った。その結果、賛成側の主張を予測し、農地あまりの現状や、水門締め切り後に冠水が



起きたこと、事業の開始段階と社会情勢が変化していることに目を向けて主張の柱を立て始めた。比較的討論が苦手な生徒が3人所属していたが、調査の目当てが発見できたことによって、積極的に資料を探したり、原稿を作成することができた。発表会で

は、それぞれの主張までは整理された意見が出たが、質問の段階では途中で話を遮って回答したり、逆に質問をするなど、討論のルールが徹底できていなかった。また、作戦タイムでは、賛成側でリーダーの男子生徒が、自分の主張を突き崩されつつあったため、仲間の4人も混乱した。そのため、教師がやや助言をしすぎてしまい、自分たちの力で討論を行わせる目的からはずれてしまった。

評価表の分析を行うと右のようになる。おおむね自分の主張を展開することはできたが、対立意見への確に答えられなかったと感じている。これは、ルールに沿った話し合いができなかったことへの自省や、時間の制約で十分に発言できなかった不満と考えられる。特に賛成側で「充実感」が「C」評価の生徒がいるが、自分の意見を貫き通せなかった欲求不満の表れと分析した。

＜表2＞

|               | 賛成側 |   |   | 反対側 |   |   |
|---------------|-----|---|---|-----|---|---|
|               | A   | B | C | A   | B | C |
| 役割分担決定への積極的参加 | 3   | 1 | 1 | 3   | 1 | 1 |
| 自分の意見の十分な発言   | 2   | 3 | 0 | 3   | 2 | 0 |
| 相手の質問への回答     | 1   | 4 | 0 | 2   | 1 | 2 |
| ディベートを行っての充実感 | 2   | 1 | 2 | 3   | 2 | 0 |

#### (6) ワークシートの分析

＜表3＞

|     |   | 第8時 |   |    |    |
|-----|---|-----|---|----|----|
|     |   | ○   | △ | ×  | 計  |
| 第3時 | ○ | 3   | 0 | 0  | 3  |
|     | △ | 2   | 0 | 2  | 4  |
|     | × | 8   | 3 | 14 | 25 |
|     | 計 | 13  | 3 | 16 | 32 |

○ = 賛成

△ = 迷っている

× = 反対

この検証授業では、分科会の主題をうけ、生徒の問題解決能力を高めることに重点を置いた。様々な資料や意見に接する中で、多角的な視点から問題を考えていくと、必ず生徒の思考に変容が見られると予想した。その結果を表3にしてみた。

当初から賛成意見を持っていた生徒はそのままだが、反対から「賛成」「迷っている」に意見が変わった生徒が目につく。特にディベートの賛成側の生徒は、「賛成」→「賛成」3人、「迷っている」→「賛成」2人、「反対」→「賛成」5人と、全員が賛成の立場に変わった。（資料2 参照）

#### 資料2 この段階での自分の意見をもう一度まとめよう

私はムツゴロウをなぜ殺すの？と思わずと反対派でした。でも今は賛成派です。ムツゴロウのことは感情論だと思います。水門をしめていても水害がおこるといっているけど私たちの使った図を見てわかるように水門がなかったら大川が干拓していいからだと思います。ムツゴロウの命より人間の命の方が大切だと思います。それに今開けたとしてもせいかくあんなに税金を使ったのにむだになると思います。  
だから私は賛成派です。

## 6 研究のまとめと今後取り組むべき課題

### (1) 研究のまとめ

地理分科会では、主体的に学びあう学習を通して、問題解決能力を高める指導法の工夫を主題として研究を進め、次の点を明らかにすることができた。

ア 調べ学習を通して、興味・関心をもって課題を見だし、深めることができる。

講義式の授業では受け身型だった生徒が、個別学習やグループ学習を通して、自分の興味・関心に基づいて、意欲的に課題を発見し、深めることができるようになった。

イ 生徒は、グループ内での学びあいを通して、協力して課題を追究していくことができる。

生徒はロールプレイやディベートによる発表を通して、互いに話し合い、助け合うことにより、多面的な視点から課題をとらえることができた。

ウ 問題解決的学習において、課題に関する資料収集を行わせるためには、教師の適切な援助により、段階的に実践を積み重ねることが大切である。

最初は戸惑っていた生徒に対しては、個々の能力に応じた教師の援助により、くり返し調べ学習やグループ学習を行うことによって、次第に課題設定や課題解決の方法を身につけていくことができた。

### (2) 今後の取り組むべき課題

われわれは、生徒が自ら学び、考え、さらに相互に学びあうことを通じて、新たな課題を発見する能力を身に付けさせることをねらいとして本研究を行った。その結果、このような指導方法を工夫することにより、社会科教育の中で「生きる力」をはぐくむことができるとの結論を得た。われわれは、本研究のテーマを達成していくためには、さらに以下について今後取り組んでいくことが大切であると考ええる。

ア 生徒の興味・関心を引き出す教師の助言の工夫

課題を設定する際には、教師の多面的な支援が必要である。生徒が深く考えずに、安易な課題を設定することがないようにするためには教師の適切な助言が大切である。

イ 課題を追究するための資料収集の指導の工夫

調査活動行うためには、地域図書館との連携を図るとともに、新聞・雑誌・インターネットの利用などによって、幅広い資料を収集することが大切である。また、調べ学習の時間を確保するために、長期休業や学校週5日制の効果的な活用を図り、計画的な指導を工夫する必要がある。

ウ 発表形式の学びあいを深め、新たな課題を発見するための支援の工夫

他者とのかかわりあいが苦手な生徒が多い中で、協力する楽しさや、つくり上げていく喜びを感じることができる授業づくりが大切である。この点で、ティーム・ティーチングによるきめこまかな指導はきわめて効果的である。また、生き生きとした発表ができるためには、日常の学級の雰囲気づくりが基盤となる。

エ 課題の設定から解決までの過程に対する評価法の開発

生徒の学習意欲を高め、さらに新たな問題解決的学習につながるための評価法の開発が必要である。

### Ⅲ 歴史的分野の研究

#### 1 研究主題

話し合い活動を通して、生徒が歴史を多角的に考えようとする授業の工夫  
—— 日清・日露戦争とアジアの情勢の単元を題材として ——

#### 2 主題設定の理由

##### (1) 研究の動機

歴史的分野の学習は、「歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う」ことを目標の一つとしている。特に、今回の学習指導要領の改訂において、生徒たちに日本を取り巻く国際環境を理解させ、国際協調の精神を身に付けさせるために、「我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせる」ことが付け加えられた。

これからの国際社会においては、国際化に加え、高度情報化やボーダレス化の一層の進行によって、環境問題・資源問題・人権問題等における国際協力の必要性が生ずる反面、経済摩擦や民族紛争など国家間や民族同士の主張の対立や争い等の発生も予測される。生徒たちが将来、このような国際社会において民主的で平和的な国家・社会の形成者として生きていくためには、国際協調の精神に基づいて社会的事象を多角的に考え、そのよりよい解決を図っていかうとする態度を育てることが必要である。

そこで、本分科会は、今回の改訂の趣旨を踏まえ、「日清・日露戦争とアジアの情勢」の単元を題材として、生徒がそれぞれの課題意識に基づき、主張の対立が生まれる背景や原因、様々な立場の人の考えや行動、戦争の経過及び結果、国内外の反応について調べ、それに基づく「話し合い活動」を取り入れた学習を行うことによって、歴史を多角的に考えようとする態度や能力を身に付けることができるのではないかと考えた。また、このような学習を通じて、生徒は、自分の立場や考えを的確に表現するとともに、異なる立場や考えをもつ他者を理解し、協調しながら、問題のよりよい解決を図っていかうとする能力や態度など社会の中で「生きる力」の基礎を身に付けさせることができると考え、上記主題を設定した。

##### (2) 社会科の授業における話し合い活動の意義

われわれは、今日の民主主義の社会において、また、これからの国際社会を生きていくうえで、様々な見方や考え方を理解し、よりよく問題を解決していくためには、話し合いは不可欠であると考え。また、その際、主体性をもって自分の意見を述べたり、他人の意見を聞いたりすることが大切である。そこで、われわれは、社会科の授業に「話し合い活動」を取り入れることの意義及び期待できる効果を以下のように考えた。

ア 他者の意見やその根拠を知ることにより、多角的な見方ができるようになるとともに、自分の考えを広げ、深めるための情報が得られる。

イ 「話し合い活動」によって、生徒は、一人よがりあるいは受け身の姿勢ではよりよい問題解決は得られないことを知ることができる。

ウ 共通の課題について話し合うことにより、集団の一体感、相互の親近感、共同での達成感が生まれ、生徒の学習の動機付けや意欲の喚起につながる。

### 3 研究のねらい

- (1) 生徒が歴史的事象を多角的に考えることができるようになるために、調べ学習と話し合い活動を取り入れるための学習過程を工夫する。
- (2) 生徒の資料収集及び資料分析・活用能力を高めるための資料の選定及び調べ学習の指導上の配慮事項を明らかにする。
- (3) 生徒一人一人が、他人の考えを取り入れ、自分なりの考えを的確に表現できるようにするための話し合い活動の種類と特色、指導上の配慮事項を明らかにする。

### 4 研究の仮説

- (1) 話し合い活動の形態を工夫することにより、他人の考えを取り入れて自分の考えを的確に表現する能力を培うことができるだろう。
- (2) 課題意識に基づく調べ学習を協力して行うことにより、生徒の資料収集や分析・活用能力が高まるだろう。
- (3) 歴史的事象をさまざまな観点から学習することにより、歴史を多角的に考えようとする態度や能力を培うことができるだろう。

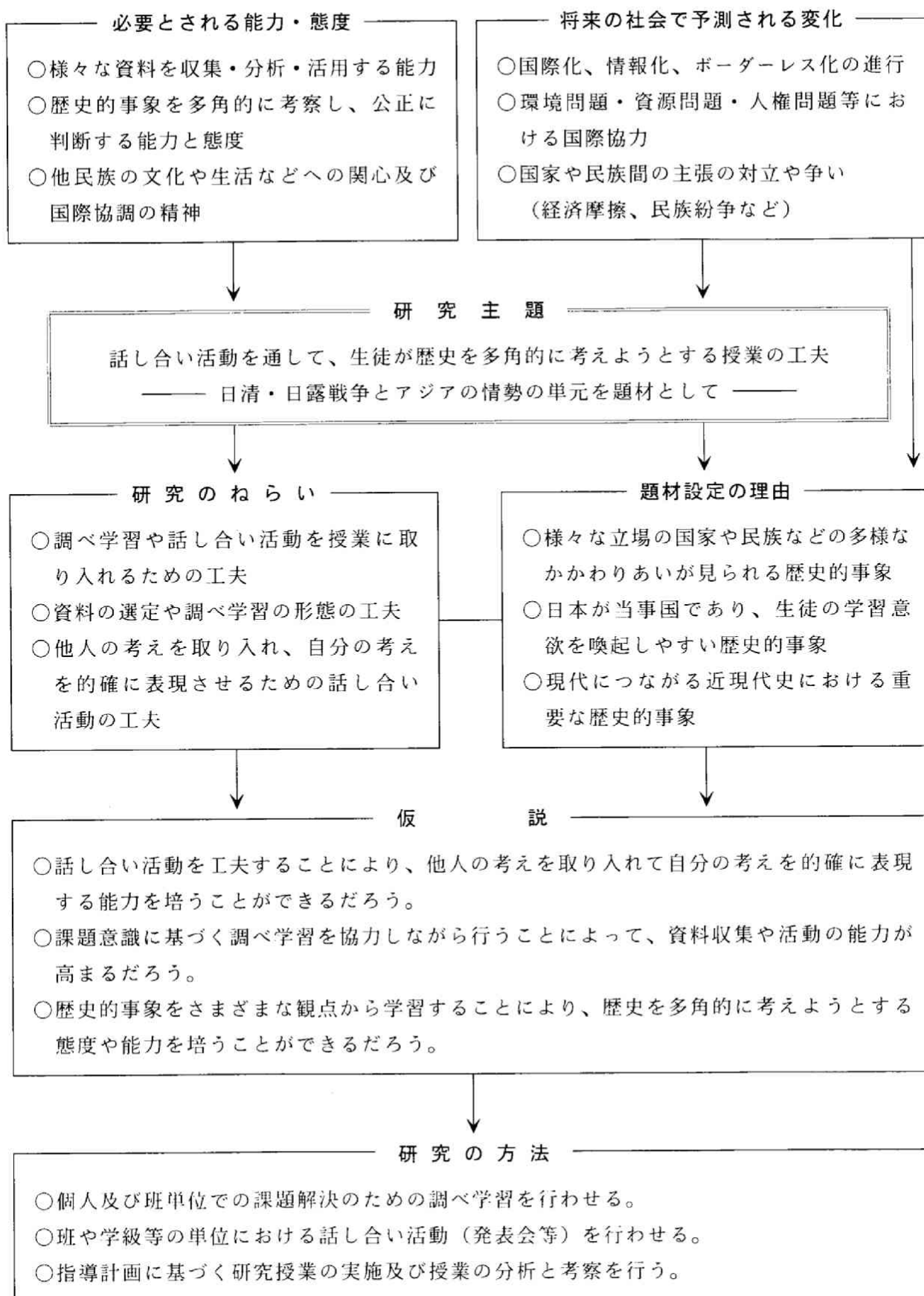
### 5 研究の方法

- (1) 生徒に日露戦争を多角的にとらえさせるために、戦争に深く関係した日本、ロシアなどの強国の主張、戦争が日本国内の産業や人々の生活にもたらした変化、朝鮮などアジア諸国や列強国に圧迫されていた国々の人々に与えた影響について、下記の項目から各班が1つ選び、調べ学習を行わせる。

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| ① 朝鮮などアジア諸国         | ④ 日本の産業     |
| ② 強国に圧迫を受けたアジア以外の国々 | ⑤ 日本国民の生活   |
| ③ ロシアなどの強国          | ⑥ 日本政府の外交政策 |

- (2) 課題を解説させるために、個人単位及び班単位に次のような調べ学習を行わせる。
  - ア 共通の資料で読み取りの基礎を学ばせた後で、課題別の資料群について班単位にそれぞれの項目からの読み取りを行わせる。
  - イ 各項目に関連する課題シートを一人に1つ以上与え、自分たちの考えをまとめさせる。
- (3) 調べた内容について、班員一人一人が他の班に自班の調査結果を説明し、質問や意見の交換を行わせる。その際、対立した考えや意見が出された場合は、班にもどって検討させる。
- (4) 班単位に日露戦争が日本国内や朝鮮などアジア諸国や人々の生活に与えた影響についての考えをまとめさせ、学級全体で話し合い（発表会）を行わせる。
- (5) 学習の終わりに、日露戦争について自分が考えたこと、分かったことなどをレポートにまとめさせる。
- (6) 指導計画に基づく研究授業を実施し、その分析と考察を行う。

## 2 歴史的分野の研究構想図



## 5 指導計画

(1) 単元名 「日清・日露戦争とアジアの情勢」

(2) ねらい

ア 19世紀後半から20世紀初めまでの我が国をめぐる国際関係のあらましについて学習し、特に、当時は、中国を舞台に欧米諸国の激しい植民地獲得競争が展開されていたことを理解させる。

イ 日清・日露戦争の原因、戦争の経過及び結果、国内外の反応について理解させ、日露戦争後の韓国の植民地化と中国における民族運動、中華民国の成立等アジアの情勢を幅広くつかませる。

ウ 日露戦争を戦争に関係した国々やアジア諸国、強国に支配されていた国々、日本の産業及び国民生活の変化などの観点から学習することにより、歴史を多角的に考えようとする能力や態度を身に付けさせるとともに、国際協調や人間尊重の精神を養う。

エ 自ら問題意識を持って課題学習に取り組み、班での話し合いによって自分の考えを広げ、深めようとする意欲や態度を養う。

オ 自分の考えを論理的にまとめ、他の人に的確に表現する能力を養う。

(3) 指導計画（8時間扱い）

| 時           | 学 習 内 容                                                                                                                 | 学 習 活 動                                                                                                                      | 指 導 上 の 留 意 点 ・ 資 料                                                                                         |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第<br>1<br>時 | ○日本と外国の関係・日清戦争当時の日本と欧米強国との関係はどうだったか。<br>○条約改正<br>・政府はどのように条約改正を進めていったか。<br>○帝国主義<br>・欧米の強国や日本はアフリカやアジアをどのように植民地化していったか。 | ・資料1について、考え、発表する。<br><br>○班単位の話し合い<br>・資料2を読み、それぞれの国（登場人物）の主張を考え、班ごとにロールプレイングを行う。<br>・資料3に関する課題シートに各自が取り組み、班ごとに話し合ってまとめ発表する。 | 資料1<br>風刺画（課題シート）<br>「漁夫の利」<br>○模造紙を活用させる。<br>資料2<br>風刺画<br>「ノルマントン号事件」<br>資料3<br>地 図<br>「19世紀後半、20世紀初めの比較」 |
| 第<br>2<br>時 | ○日清・日露戦争の原因、経過及び結果                                                                                                      | ・班ごとに、ワークシートにしたがって、日清・日露戦争の原因・経過・結果を班単位で調べ、発表する。                                                                             | ワークシート1<br>「日清・日露戦争の比較」<br>○教師が、必要に応じて補足説明する。                                                               |

|                                                                   |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第<br/>3<br/>・<br/>4<br/>・<br/>5<br/>時</p> <p>第<br/>6<br/>時</p> | <p>○日露戦争の与えた影響と国内外の反応</p> <p>日露戦争が戦争に係した国々に与えた影響及び国内外の反応はどのようなものであったか。</p> | <p>○班での調べ学習</p> <p>①右のA～Fの項目の中から各班1つ課題を選び、調べ学習や話し合いを通じてまとめる。</p> <p>②課題シートを班員で分担して調べ、話し合いを通じて全体の考えをまとめる。</p> <p>③全員が発表しやすいように原稿化する。</p> <p>○分散グループでの話し合い</p> <p>①異なった課題を調べた者同士の班（分散グループ）を作り、各班の考えをそれぞれ発表する。</p> <p>②他の班に対して、必要に応じて質問する。</p> <p>○班での話し合い</p> <p>①元の班にもどり、他の班からの質問や他の班への質問をまとめる。</p> <p>②発表会に向けて、自分たちの調べた項目のまとめかたについて話し合う。</p> <p>③発表者を決定し、発表者を中心に協力し発表原稿の準備をする。</p> <p>④他の班の発表に対する質問をまとめて、質問者を決定する。</p> | <div data-bbox="1043 282 1394 582" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 朝鮮などのアジア諸国<br/>B 強国に圧迫を受けたアジア以外の国々<br/>C ロシアなどの強国<br/>D 日本の産業<br/>E 日本の国民生活<br/>F 日本政府の外交政策</p> </div> <p>○希望が重複した場合は、なるべく話し合いで決める。</p> <p>○他の班の調査結果についてはまとめのプリントにメモを取るよう指示する。</p> <p>○自分たちが調べた内容と対立する考えについて、積極的に質問するよう指示する。</p> <p>○他の班から出された質問についても調べ、発表できるように指示する。</p> <p>○原稿用紙3枚程度にまとめさせる。</p> <p>○自分たちの班への質問を予想し、それに対する回答を考えさせる。</p> |
| <p>第<br/>7<br/>時</p>                                              | <p>○日露戦争の与えた影響と国内外の反応</p>                                                  | <p>○学級全体での話し合い（発表会）</p> <p>①全体場で、班の代表者が自分たちの項目について発表する。</p> <p>②他の班からでた質問に答え、意見の交換を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>○特に聞いている側から積極的に質問や意見を出すように働きかける。</p> <p>○発表者以外の班員は、他の班の質問の答えを考えるようにする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|             |                    |                                                                                           |                                         |
|-------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 第<br>8<br>時 | ○日露戦争の与えた影響と国内外の反応 | ①発表会で出た意見の対立点を考え、発表する。<br>②今までの学習を踏まえて、他の項目（観点）も参考にしながら、「日露戦争」についてわかったことや自分の考えをレポートにまとめる。 | ○必要に応じて教師が補足説明を行い、論点を整理しながら、歴史の流れを確認する。 |
|-------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|

※ 課題シートとは、提示した資料から課題を考えさせるためのうえで必要な設問を答えさせるためのプリントである。

※ ワークシートとは、項目の内容を読み取るためのプリントである。

※ 課題シートは、教科書及び研究員が授業で使用している資料集等の中から使用した。

#### (4) 評価

ア 19世紀後半から20世紀初めの日本や世界がおかれていた状況を理解し、日清・日露戦争から韓国併合に至る過程を幅広くとらえることができたか。

イ 日露戦争を、関係した様々な国や、国内外の反応などを多角的にとらえ、よりよい問題解決のためには国際協調や人間尊重の精神が大切であることが理解できたか。

ウ 自ら問題意識を持って課題に取り組み、話し合いを通じて他人の考えを取り入れることによって自分の考えを広げ、深めようとする態度が養われたか。

エ 自分の考えを論理的にまとめ、他人に的確に表現する能力が養われたか。

#### (5) 評価の方法

生徒の興味・関心・態度及び歴史的事象に対する見方・考え方の変容を授業中の教師の観察とともに、課題シート、自己評価カード、まとめのレポートをもとに把握する。

#### がんばりカード 2年 組 番氏名

|     |                                |       |
|-----|--------------------------------|-------|
| 第1時 | 興味を持って、課題に取り組んだか               | A・B・C |
|     | 教科書や資料集・年表などの資料を自分でさがし活用できたか   | A・B・C |
|     | 班の話し合いの時、人の考えを聞き、自分の考えを表現できたか  | A・B・C |
|     | 全体の発表または劇の時、班で協力してできたか         | A・B・C |
|     | 班の話し合い・発表で頑張った人はだれか            |       |
| 第2時 | 興味を持って、課題シートに取り組んだか            | A・B・C |
|     | 教科書や資料集・年表などの資料を自分でさがし活用できたか   | A・B・C |
|     | 日清戦争・日露戦争について、おおむね理解できたか       | A・B・C |
| 第3時 | 班で協力して、課題を設定できたか               | A・B・C |
|     | 興味をもって自分の課題シートに取り組めたか          | A・B・C |
|     | よく考えて自分の考えをまとめてみたか             | A・B・C |
| 第4時 | 他の班員の発表をよく聞こうと心がけたか            | A・B・C |
|     | 他の班員に、自分の調べたことを分かりやすく表現できたか    | A・B・C |
|     | 班で設定したテーマの内容が、だいたい理解できたか       | A・B・C |
|     | 班の話し合い・発表で頑張った人はだれか            |       |
| 第5時 | 班の話し合いの時、班のテーマをたいたい自分のものにできたか  | A・B・C |
|     | 自分の班テーマを他の人に分かりやすく伝えることができたか   | A・B・C |
|     | 興味を持って、他のテーマの発表を聞いたか           | A・B・C |
|     | 他の班からの質問を理解し、メモできたか            | A・B・C |
|     | A朝鮮 A・B・C B圧迫 A・B・C C列強 A・B・C  |       |
|     | D産業 A・B・C E国民 A・B・C F政策 A・B・C  |       |
| 第6時 | 他の班からの質問を、班員に伝えることができたか        | A・B・C |
|     | 発表に向け、班のまとめに協力できたか             | A・B・C |
|     | 他の班に対する質問を、考えることができたか          | A・B・C |
| 第7時 | 発表または質問がしつかりできたか               | A・B・C |
|     | 自分の班の発表に協力できたか                 | A・B・C |
|     | 他の班の発表を、課題意識や関心をもって聞いたか        | A・B・C |
|     | A朝鮮 A・B・C B圧迫 A・B・C C列強 A・B・C  |       |
|     | D産業 A・B・C E国民 A・B・C F政策 A・B・C  |       |
| 第8時 | 19世紀の日本や世界の状況をいくつかの角度から理解できたか  | A・B・C |
|     | 様々な国の人々の立場を理解し、国際協調の精神が身についたか  | A・B・C |
|     | 問題意識をもって課題に取り組み、話し合いに積極的に参加したか | A・B・C |
|     | 自分の考えをまとめ、他の人に分かりやすく説明できたか     | A・B・C |

A…十分満足できる B…おおむね満足できる C…もう少し頑張った方がよい

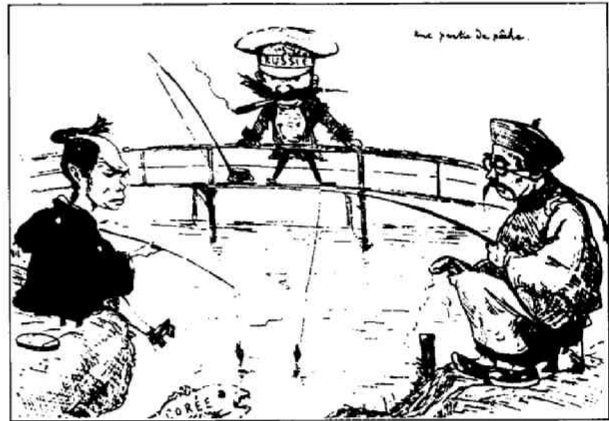
## 6 授業の概要

＜第1時＞歴史の流れの確認及び課題学習の方法についての学習

・〔資料1〕… 各班で協力し、課題シートを完成させていた。その後発表させ、日清戦争についての国際関係を理解させた。このことが次時の授業につながった。

・〔資料2〕… 風刺画中の人物を6人（船長、船員、溺れている人4名）選び、班ごとに役を決め、それぞれの人物の立場での台詞を考えさせ、代表者にロールプレイングをさせた。それぞれの班で事件について調べ、役にあった台詞ができていた。

### ＜資料1 漁夫の利＞



・19世紀後半と20世紀初めの世界の変化を気付かせるために、19世紀後半と20世紀初めの各国の領土がわかる地図を見せ、帝国主義の意味を説明しながら、帝国主義国が勢力範囲や植民地を広げている様子を理解させた。

### ＜資料2 ノルマントン号事件＞



・本時では、この単元のねらいの一つである、今後の課題学習方法の練習という意味で、資料の内容や量は簡単に仕上げられるよう配慮した。生徒の活動を見ていると自分たちで考えられることは考え、調べる必要のあることについては、目的をもって調べていた。

＜第2時＞課題に直接つながる事象の調査学習

・〔ワークシート1〕… 日清戦争と日露戦争の概略をまとめるために、班ごとに協力して行わせた。班によっては進み具合に違いが見られたが、手際よく行っている班は、分担して後で教え合うという方法をとっていた。原因や経過についての質問で苦労している生徒が多かった。

### ＜ワークシート1＞

| 日清戦争     |                                           |             | 日露戦争     |                                              |              |
|----------|-------------------------------------------|-------------|----------|----------------------------------------------|--------------|
| いつ       | 1894年～1895年                               | (この頃) 日本と清国 | いつ       | 1904年～1905年                                  | (この頃) 日本とロシア |
| 原因       | 清国が朝鮮半島に勢力を伸ばす。日本がこれを許さず、戦争を挑んだ。          |             | 原因       | 朝鮮半島の支配権をめぐって、日本とロシアが衝突した。                   |              |
| 経過       | 1. 日本が清国に宣戦布告。2. 日本が清国の領土を占領。3. 日本が清国に勝つ。 |             | 経過       | 1. 日本がロシアに宣戦布告。2. 日本がロシアの領土を占領。3. 日本がロシアに勝つ。 |              |
| 結果       | 日本が清国に勝つ。清国が朝鮮半島の宗主権を放棄した。                |             | 結果       | 日本がロシアに勝つ。ロシアが朝鮮半島の宗主権を放棄した。                 |              |
| 戦中の出来事   | 1. 日本が清国に宣戦布告。2. 日本が清国の領土を占領。3. 日本が清国に勝つ。 |             | 戦中の出来事   | 1. 日本がロシアに宣戦布告。2. 日本がロシアの領土を占領。3. 日本がロシアに勝つ。 |              |
| 戦後に起きたこと | 1. 日本が清国に宣戦布告。2. 日本が清国の領土を占領。3. 日本が清国に勝つ。 |             | 戦後に起きたこと | 1. 日本がロシアに宣戦布告。2. 日本がロシアの領土を占領。3. 日本がロシアに勝つ。 |              |

・〔発表（答え合わせ）〕… 1班から順に指名して発表させて確認したが、予想していたよりも時間がかかった。

・ワークシート1に記入するため、各自で調べたり、班で協力していた

ので、熱心に取り組んでいた。

### ＜第3時＞課題の提起・追究 (1)

・〔課題提起〕…「日露戦争は関係した国々にとってどのような戦争であったか？」を板書し、A～Fの6種類の項目（P18指導計画参照）を提示し、班ごとに希望を取ったが、どのクラスも「日本の国民生活」が多かった。自分たちと最も関係が深く身近に感じられる調査項目が生徒の意欲を喚起させることがわかった。

・〔班ごとの追究〕…それぞれの項目の課題シートを班に配布すると、興味深く取り組み始める生徒もいれば、なかなか自分の分担の資料を決められない生徒もいた。希望した項目にならなかった班には、調べ方の方法などを助言し、意欲付けを行った。

・調べ学習にあたっては、教科書を中心に資料集や参考図書なども利用するよう助言した。

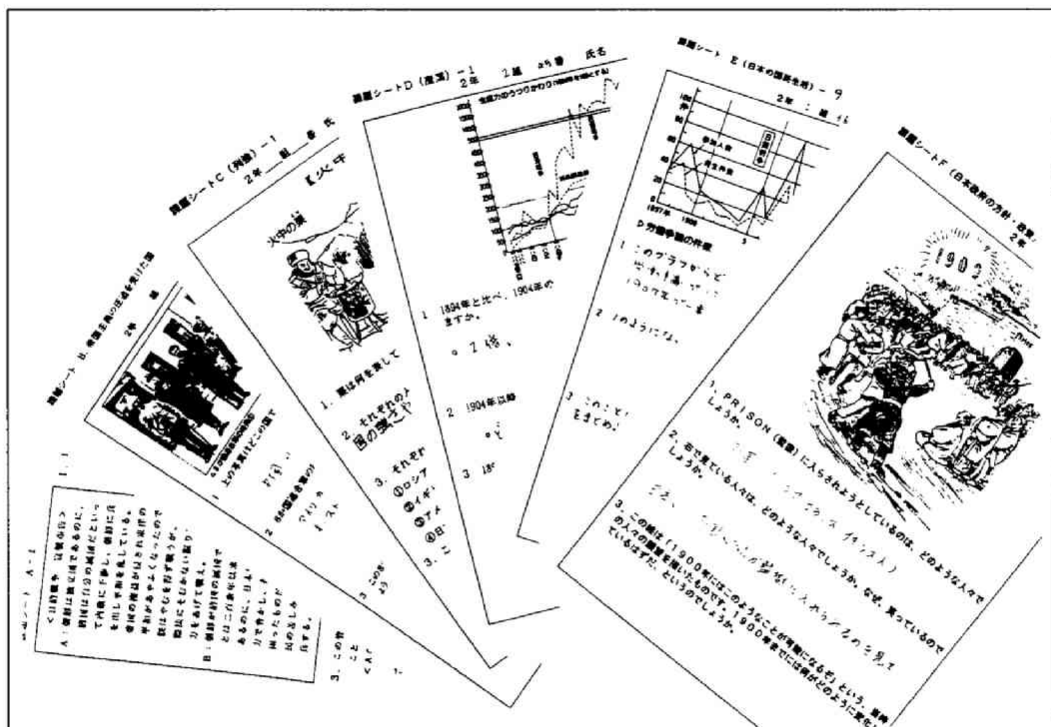
### ＜第4時＞課題の提起・追究 (2)

・〔班ごとの意見まとめ〕…個人で調べたことを班の中で発表し合いながら、自分たちの項目からの意見をワークシート2にまとめさせた。あらかじめ時間の目安を指示しておいたので、およそまとめられていた。

### ＜ワークシート2＞

| 「日露戦争はどのような戦争であったか？」 |                                                                                                                         | 2年組 番 班 名前 |                                                                                                                       |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目                   | 内容                                                                                                                      | 項目         | 内容                                                                                                                    |
| A                    | 日露戦争は「大東 遼東 戦争」であった。<br>その理由は、朝鮮半島の権益をめぐって、日本とロシアが争ったことである。日本は、朝鮮半島の権益をめぐって、ロシアと争ったことである。日本は、朝鮮半島の権益をめぐって、ロシアと争ったことである。 | D          | 日露戦争は「日本の産業と発展を促した戦争」であった。<br>その理由は、日露戦争の結果、日本の産業が急激に発展したためである。日露戦争の結果、日本の産業が急激に発展したためである。日露戦争の結果、日本の産業が急激に発展したためである。 |
| B                    | 日露戦争は「日本の国力を弱めた戦争」であった。<br>その理由は、日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。            | E          | 日露戦争は「日本の国力を弱めた戦争」であった。<br>その理由は、日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。          |
| C                    | 日露戦争は「日本の国力を弱めた戦争」であった。<br>その理由は、日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。            | F          | 日露戦争は「日本の国力を弱めた戦争」であった。<br>その理由は、日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。日露戦争の結果、日本の国力が弱くなったためである。          |

### ＜授業で使った課題シート（一部）＞



・〔分散グループでの発表〕… 班を分散グループ（各班から集まった6人で構成された5つのグループ）にするときには、メンバー構成を考えて、事前にグルーピングし、編成を行った。移動については、黒板に配置図を準備しておいたのでスムーズにできた。それぞれ自分たちの項目の調査結果を発表させた。他の生徒にはワークシート2に記入させた。わかりやすく発表をする生徒や上手に伝えられない生徒など様々であったが、必ず発表しなくてはならないので、普段発言のない生徒にはよい経験になった。

・他の分野からの発表をワークシート2に書き取ることに個人差があり、かなり時間を要した。予定通りに進まず、グループでの発表が授業内で終えたのは2～3分野であった。また、書き取ることに精一杯で実際に他の分野からの意見を把握するところまではいっていなかった。改善の必要を感じた。

#### ＜第5時＞課題の提起・追究 (3)

・《改善策》… 前時の反省を踏まえ、各班からあらかじめ意見を集め、印刷して生徒に配布し、それを使って各グループで発表させることにした。授業の初めに各班で発表の打ち合わせを行わせたが、班ごとに「1の資料から〇〇がわかって、3の資料から△△がわかります。」などと確認しながら印刷物にメモをしたり、アンダーラインを引いていた。



・〔分散グループでの発表会〕… 印刷物を使用したために、前時よりも資料に基づいた根拠のある説明がスムーズにできた。聞く側も前時と違って書くことなく聞くことに集中できたため、質問が活発に出ているグループもあった。

・〔報告〕… 元の班に戻り、どのような質問が出たか報告させた。

#### ＜第6時＞発表会の準備

・〔発表会の準備〕… 発表者が即座に決まる班もあったが、押しつけあってなかなか決まらない班もあった。発表者を中心に協力して発表原稿の準備をしていた。他の班に対しての質問や意見を準備させた。余裕がある班は、予想される質問に対する答えも考えさせた。だれもが一度は発言するように促したので、他班の意見や資料をもよく検討していた。

#### ＜第7時＞発表会

・〔各班からの発表〕… A（朝鮮などのアジア諸国）を調べた班から順に発表させた。資料を効果的に活用し、説得力のある発表をした班もあれば、前回の分散グループでの発表とはほとんど変わらない班もあった。

・〔質問・討論〕… 前時でよく協力していた班は質問に即答していた。政府の外交政策についての発表に対して、別の立場の



生徒から反論が出され、論点を明確にした活発な討論が行われたクラスもあった。自ら手を挙げる生徒が数名いたが、まだまだ積極的とは言えなかった。

- ・〔宿題〕… 質問に答えられなかった班については、次時までの宿題とした。

#### <第8時>まとめ

- ・〔宿題発表〕… 宿題にしてあったのでどの班もよく調べて、発表していた。
- ・〔まとめ〕… 今までの学習を踏まえて、「日露戦争の学習を終えて」という題名で、生徒がそれぞれ分かったこと、考えたことなどについてレポートを書くように指示した。半数ぐらいの生徒は間もなく書き始めたが、なかなか書き出せず資料やプリントなどを調べている生徒もいた。

#### <生徒のレポート1>

日露戦争は、政府も国の産業にとっても、たけど全体的にみると、あまりよくなかったと思います。政府にとっては、土地が手に入ったし、不平等条約も改正され、欧米の強国仲間入りに1歩近づいたことができた。産業も発達し、軍艦も戦艦車なども日本が生産できるようになりました。しかし戦場となった朝鮮の人々は、土地をうばわれ、わりと日本語を覚えさせられたり、日本人に軽蔑されたりしました。満州も戦場になったため、家を焼かれたりしました。そして日本国民も、家族を失ったり、税金が重くなった、ロシアから賠償金をえることができなかったことを不満に思い、日比谷焼き打ち事件をおこしたりと、とても苦しい生活でした。戦争の被害も約48万人でした。たいてい原因が朝鮮・満州の支配をめぐる対立と、実にくだらないと思います。帝国主義はよくないと思います。でも、ロシアが朝鮮を征服してしまったとすると、次にねらわれるのは日本だということもわかって、戦争したという面もあります。しかし、それを戦争で解決しようとするのはいいじゃないです。たと国どうし仲良くしてしまえばいいと思います。

#### <生徒のレポート2>

私たちが調べた立場は日本の産業面でした。産業としては、勝ったことにより産業が発達したのだったんではないでしょうか。その理由は、今まで輸入していた造船、石炭などの工業が発達していったこと。つまり、日本でも生産できるようになったということ。それから貿易も発達したということ。綿糸、生糸なども大量に生産し輸出していったのです。その一方で、日清戦争後は、中国朝鮮に対する貿易が有利になったことでもあると思います。しかし、全部が全部良いことでは、ありません。産業が発達するにしろ、工場が増えていって、公害の問題が出てくるようになっていきました。また工場での労働者は安い賃金、そして長い労働時間苦しいでいました。このように、産業が発達しても公害の問題が出て、苦しむ人が出たりなどしてやはり悪い面もあることがわかりました。ほかのこと例えば、日本の国民生活や朝鮮の立場の人たちは、家族が兵隊に連れて行かれて働き手がいなくなったとか、軍費のため税金が増えたり、苦しい生活になったとか、それから韓国が日本に併合され、朝鮮の土地の多くが日本にうばわれたなど、ちがう立場からみれば悪いことは、たくさんあります。その反対に良かったという立場の人たちもいると思います。だから私は、良かったとも、悪かったとも言えません。

## 7 研究のまとめと今後の課題

歴史的分野分科会では、主題にそって研究を進めた結果、次の点を明らかにすることができ、また今後の課題が明確になった。

### (1) 研究のまとめ

#### ア 生徒は、課題を調べ、考え、話し合う活動に意欲的に取り組む

調べ学習に基づいて話し合い活動を行う学習方法に対して、77人中60人(78%)の生徒が、「おもしろい」「自分で調べると内容がよく分かる」「助け合える」などと肯定的に回答し、一方、22%の生徒が「大変だった」と答えていたが、活動自体を否定的にとらえた生徒は一人もいなかった。このことから、課題を「調べ、考え、話し合う」など生徒の主体的な活動を授業に取り入れることは、生徒の学習に対する意欲を引き出す上で効果的であると言えよう。

イ 調べ学習を行うことにより、生徒は資料に基づいて自分の考えをまとめることができる。

生徒の日露戦争をとらえる視点を焦点化するために、考える視点として6つの項目から班単位に1つずつ選択させるようにした。そして、それぞれの項目に関する課題シートに取り組み、それを自分の考え方をまとめるために活用させた。また、班単位の調べ学習を通じて、不十分な部分をお互いに補い合いながら、自分の考えを深め、まとめることができた。

ウ 生徒は、さまざまな観点から歴史的事象をとらえるための話し合い活動を通じて、歴史を多角的に考えようとする。

日露戦争についてさまざまな観点からとらえさせるために、班での調べ学習にひきついて、班を分散し、異なる観点（項目）を調べた者が集まった新たなグループでの話し合いを行わせたが、日頃消極的な生徒が他の者へ自班の考えを述べる場面がみられた。事前に班で、自班の意見の発表の仕方を話し合ったことが自信につながったと思われる。

また、最後の授業で日露戦争についての自分の考えや分かったことをレポートに書かせたが、全体の87%の生徒が自分が調べた観点だけにとらわれることなく、他の観点からの考え方を取り入れた記述が見られた。このことから、さまざまな観点から歴史的事象をとらえるための話し合い活動を行うことによって、歴史的事象を多角的に考えようとする能力や態度を培うことができると言える。また、話し合い活動について、ある生徒は次のように述べている。

「この8時間の学習の中で、私は討論がいかに大事かということがわかりました。3人いれば3通りの考えが生まれます。1人でいつまでも考えていたって出てくる数は少ないと思います。たくさんの人たちがいるから新しい考えが生まれます。私とは別の見方から考えた人、同じ視点でも違う考えを持つ人、いろいろいると思います。それに、他人の発表に対して意見を言うことも大切だと思います。」

## (2) 今後の取り組むべき課題

ア 生徒に提示した課題シートは、一人ひとりの資料が異なるために、その収集・作成のためには、余裕をもった準備のための時間をあらためて確保しておく必要がある。

イ 課題シートの内容は、取り上げる資料とともに、具体的に課題の本質に迫れるような設問を検討する必要がある。

ウ 話し合い活動を活発にさせるためには、論点が明確で具体的な論題を工夫する必要がある。

エ 調査・話し合い活動という授業形態を成立させるために、生徒が身につけておくべき基礎的な知識や能力とは何かを明らかにする必要がある。

オ 多角的な見方に基づいて主体的に判断する力を育成するためには、1つの単元だけの学習では不十分であり、同じような形態で継続的に授業を行っていく必要がある。